

著書、学術論文等の名称		単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1	(論文)嚥下障害または構音障害を有する患者における最大舌圧測定の有用性—新たに開発した舌圧測定器を用いて—	共著	2012 年 6 月	日本摂食・嚥下リハビリテーション学会雑誌 16 巻 2 号	わが国初の医療機器として認可を受けた舌圧測定器 (TPM-01, JMS 社, 広島) の臨床的有用性の評価を目的として嚥下障害患者と構音障害患者合計 115 例の最大舌圧を測定し, 解析した。研究には, 嚥下障害患者を扱う県内 11 病院のリハビリ関連部門の協力を得た。その結果, 測定した舌圧値の個人内標準偏差は平均 2.8kPa であり, 舌圧値の再現性及び信頼性は臨床的に問題のない良好なレベルであると確認できた。また, 藤島の嚥下グレード, 反復唾液飲みテスト, 会話明瞭度等の従来の一連に口腔機能の評価結果との関連性があり, 本器による舌圧測定が嚥下機能をはじめとする口腔機能評価において臨床的に有用な定量的指標となりうる事が指摘できた。 ページ数: 12 頁 著者: 武内和弘, 小澤由嗣, 長谷川 純, 津田哲也, 狩野智市一, 上田麻美, 豊田耕一郎 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 担当ページ: pp. 175-181, 担当頁特定不可能
2	(論文)一言語聴覚士の臨床遍歴	単著	2012 年 3 月	人間と科学(広島県立大学保健福祉学部雑誌) 12 巻 1 号	著者の長年の研究成果である重症心身障害児に対する言語訓練の効果と必要性, 口蓋裂患者の発生率調査, スピーチ・セラピーの現状と課題, 口蓋裂言語の開鼻声のナゾメータを用いた解析と臨床的評価法の試作, 上顎切除後の後遺症としての構音障害の歯科補綴的処置による回復程度の評価法, 失語症患者の在宅リハビリテーションの実践的研究, 新たに開発した舌圧測定器の臨床的有用性研究等について要点を概括し, あわせてコミュニケーションの本質について考察し報告した。 ページ数: 8 頁 著者: 武内和弘 担当ページ: pp.1-8, 単著
3	(発表)口腔機能における舌圧測定の有用性—新たに開発した舌圧測定器を用いて—	共著	2011 年 7 月	第 23 回日本嚥下障害臨床研究会尾道大会予稿集	新たに開発した舌圧測定器 (TPM-01, JMS 社, 広島) を用いて嚥下患者の舌圧と従来の定性的嚥下障害機能検査との関係を調査した広島 study の中間報告である。測定した舌圧値の信頼性 (再現性) は高く, 嚥下障害が中～軽度の患者, 及び反復唾液飲みテスト 2 回以下の患者は, 正常群より舌圧が有意に低く, 本舌圧測定器の臨床的有用性が確認できた。 ページ数: 1 頁 著者: 武内和弘, 小澤由嗣, 長谷川 純, 津田哲也, 狩野智市一, 上田麻美, 豊田耕一郎 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 担当ページ: p. 29, 担当頁特定不可能